

現在、猛烈編集集中の書籍や雑誌、映像作品から、担当者がとっておきのニュースを紹介するコーナーです。今回は和牛の話。



太田殖さんと京子さん。北海道白老町で繁殖牛48頭を飼う。子牛のセリ値は町内でもトップクラス

## 子牛が下痢せず、大きく育つ 増し飼いと追加哺乳

新刊『名人が教える和牛の飼い方 コツと裏ワザ』より

**子牛の素質は  
生まれる前に決まる!?**

子牛価格の高騰はまだまだ続いている。そんななかでも、少しでも高く売するために子牛に配合飼料を多給し、余分な脂肪（化粧肉）をつけてしまふ農家も多い。本誌では「脱化粧肉」シリーズで、脂肪ではなく胃や骨格の発達を重視した「肥育で伸びる子牛」の育成方法の実践を追いかけてきた。

じつは、育成より前に、子牛の素質を左右する大事な時期がある。まだ母牛のお腹の中にいる時期——お産2カ月前からの分娩前後のころだ。北海道の太田殖さん・京子さん夫妻は、この時期の親子の管理を見直すことで、子牛の下痢がグッと減った。成長も早まり、前より1カ月早く出荷できる子牛も増えたという。

新刊『名人が教える和牛の飼い方 コツと裏ワザ』から、太田さんの分娩前後の管理を見てみよう。

# 良質粗飼料で 増し飼い

分娩2カ月前から離乳までは、栄養価の高い一番乾草をたっぷりやる。お産前でお腹が苦しいときでも、いい草だと喜んで食べてくれる。配合飼料は粗飼料で足りない栄養を補う程度に（1日約3kg）。



離乳後の維持期は、太りすぎに注意。  
天候不良時に刈った栄養低めの自家産  
乾草を与える

## 母牛の粗飼料を替えただけで

以前はいろいろな対策しても、子牛の下痢が減らせずに困っていた京子さん。地元の獣医・佐野公洋先生から、分娩前後の増し飼いの母牛の粗飼料を替えることを勧められた。

そういえばこれまで子牛には「高価な乾草を」と思ってたやっていたが、母牛には、雨当たりなどで栄養価が低い自家産乾草でいいと思っていた。京子さん、ここは試しに母牛のために栄養価の高い一番乾草を奮発。分娩2カ月前から、腹いっぱい食べさせてみた。

すると、子牛が明らかに大きく生まれるようになってびっくり。下痢もほとんどしなくなった。

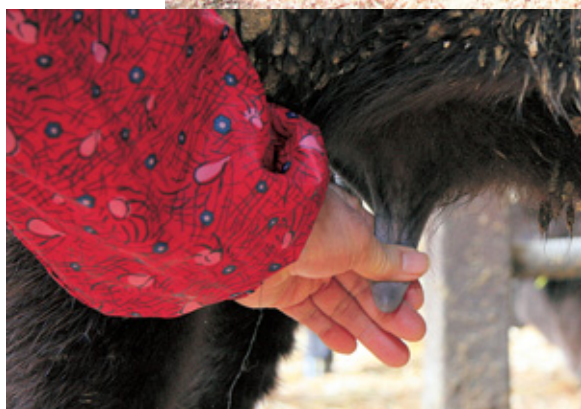
## 草で満腹に

なぜ、増し飼いは粗飼料が大事なのか。佐野先生はこう考える。

「黒毛和種は改良で大型化しています。分娩前2カ月間は、お腹の子が急成長する時期で、栄養要求量も昔



前の日の夜に生まれた子牛。  
増し飼いののおかげで、足腰が  
しっかりしていて元気に乳を  
飲んでいる



子牛が母牛のおっぱいを突き  
上げているのを見て、「もし  
や」と乳頭を搾ってみる京子  
さん。乳の出が悪いようだ

より増えています。この期間の増し  
飼いが十分でないとい、子牛が小さく  
未熟なまま生まれ、病気がちになっ  
てしまいます。

配合飼料だけを増やしても、満腹  
感が得られないとストレスが多い。  
第一胃の状態も不安定になり、増し  
飼いの効果が十分出ません。まずは牛  
が喜んでたくさん食べる良質粗飼料  
で満腹感を与えること。これなら体  
調もよく、座る時間も増えて子宮や  
乳房の血流量が上がります。お腹の  
子に栄養が行き渡り、免疫物質を与  
える初乳も十分に出るので、子牛が  
大きく生まれ、丈夫に育つのです」

### 母乳も足りない？

そして生後1カ月間も、子牛がグ  
ンと成長する大切な時期。最近、母  
乳だけでは栄養が足りない子牛が多  
いという。そこで太田さん夫婦は、  
母乳の補助として粉ミルクも飲ませ  
るようになった。おかげで成長が早  
くなり、スターターの摂取量も上が  
った。





## 追加哺乳も大事

母乳だけだと不満そうな子牛には、追加で粉ミルクを飲ませる。最初はいやがるので、子牛を抱きこんで暴れないようにし、乳首を口の中に入れて慣らす。生後1～3日間は産後疲れて母牛の乳量が少ないので、1日1ℓ。その後は飲みたいただけ(1回300～400ml)与える



## 名人が教える 和牛の飼い方 コツと裏ワザ

農文協編 B5判160ページ 2300円+税

『現代農業』に掲載された和牛記事の傑作選。現代の血統に合った増し飼いや子牛の育成方法の実践例をはじめ、子牛の下痢や皮膚病などをわが家にあるもので治す知恵、簡単にできるお灸などのツボ療法、日々の作業がラクになる道具の工夫など、全国の農家の知恵や工夫・技術を豊富なイラストや写真で紹介。